

【計画名称】 道の駅「どんぐりの里いなぶ」・どんぐりの里整備計画**計画概要****◆計画期間** 平成27年度～平成31年度**◆計画の目標**

本計画は、道の駅「どんぐりの里いなぶ」を交流拠点の中心とする「どんぐりの里整備計画」に基づき整備するものである。稲武地域は豊田市の北の玄関口であり、道の駅「どんぐりの里いなぶ」は、国道153号及び国道257号が交差する愛知・長野・岐阜・静岡の四県を結節する交通の要衝に位置する。平成17年の市町村合併以前の稲武町時代（平成11年3月オープン）に観光等の情報発信、地元特産品等の販売を通じた地場産業育成・地域振興・雇用創出を目的に設置。また、周辺には「どんぐりの湯」や「福祉センター」なども併設し、観光交流の促進、地域の健康・福祉の拠点として周辺整備を図ってきた。しかし、稲武地域は、少子高齢化・過疎化が急速に進み、地域社会や地域経済に大きな影響が出始めている。このような課題を解決するため、道の駅「どんぐりの里いなぶ」を地域経済を支える地方創生拠点として拡充・機能強化を図り、併せて「どんぐりの里整備計画」を進めるものである。

◆計画の成果目標（定量的指標）**指標①**：道の駅「どんぐりの里いなぶ」地域振興施設、「どんぐり横丁」の利用客数（年間）当初現況値(H27) 449千人/年 ⇒ 目標値（供用後） 494千人/年**指標②**：豊田市稲武地域バス（どんぐりバス）の利用者数（年間）当初現況値（H27） 10,451千人/年 ⇒ 目標値（供用後） 10,451千人/年

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
【A 基幹事業】	102百万円		
道路拡幅	1百万円	交通結節点区域に隣接する事業は遂行済み。平成31年度に多目的広場（単市事業）の整備に伴い、道路拡幅を整備予定である。	6.5%
交通結節点整備	101百万円	3,000㎡において整備を実施し、平成30年4月に利用開始した。平成30年度に身しょう者用駐車マス保護屋根を整備予定である。	92.7%
合 計	102.0百万円		

※事業費は実績額

※進捗率（%）は各事業の計画に対する実施割合 【整備量ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

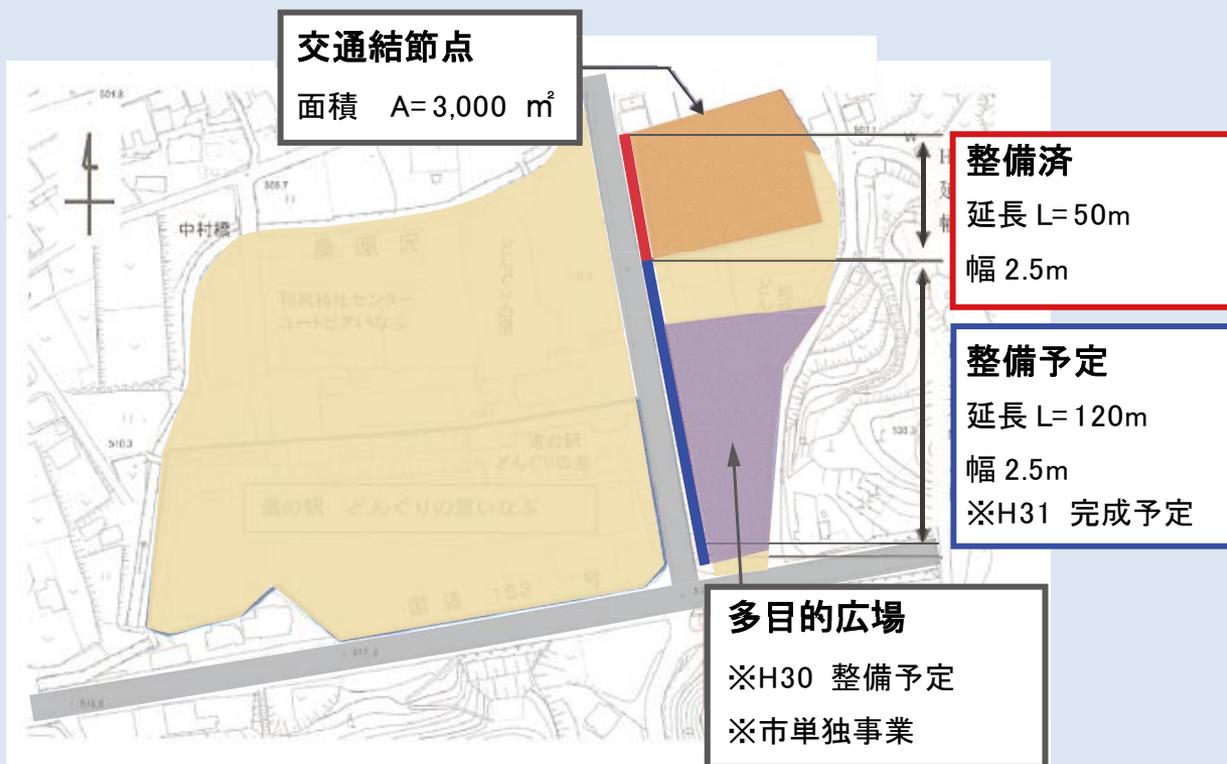
I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【基幹事業（道路拡幅）】

■ 事業効果

・道路幅の拡張により、「道の駅」機能拡充に合わせた歩行者空間の整備を実現。歩行者と車両の動線が分離され、「道の駅」利用者の安全で快適な歩行空間を確保できた。

A-1 稲武針原線（歩道整備、L=50m）

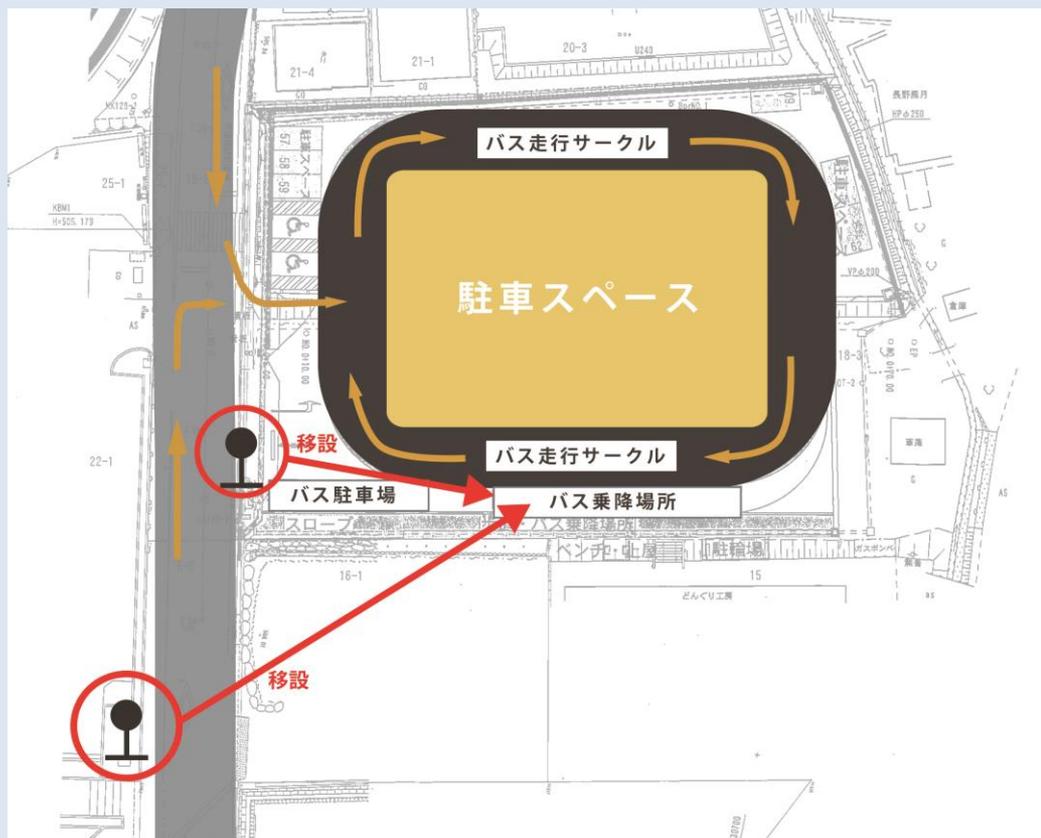


I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【基幹事業（交通結節点整備）】

■ 事業効果

・ 交通結節点の整備により、計6路線の路線バスの乗り入れが可能となり、地域住民の交通利便性が向上し、道の駅「どんぐりの里いなぶ」の機能拡充を図ることができた。さらに、市道上にあったバス停を交通結節点内に移設することで、安全性の向上が図られた。また、駐車スペースの増加により、最大受け入れ客数が増加したため、ピーク期における道路の渋滞緩和にも繋がっていると考えられる。



Ⅱ 定量的指標の達成状況

事業目的

- ①観光客に対する、稲武地域の観光の**情報発信**や**地域産業育成**
- ②地域住民に対する、**地方創生拠点**としての機能強化

評価指標

- ①「どんぐり横丁」の利用客数
- ②「どんぐりバス」の利用客数



指標①（道の駅地域振興施設「どんぐり横丁」の年間利用客数）

当初現況値(H27)	449千人	目標値と実績値に差が出た要因 紅葉シーズンであり、本施設の繁忙月である10月の入り込み客数が大きく落ち込んでいることから、天候不良による入込客数の減少が影響していると考えられる。
最終目標値(H31)	494千人	
中間目標値(H29)	476千人	
中間実績値(H29)	423千人	

※「どんぐり横丁」：道の駅「どんぐりの里いなぶ」を形成する**地域産業促進施設**であり、地域特産品の物販を行う。



図：どんぐり横丁入込客数推移（月毎）

Ⅱ 定量的指標の達成状況

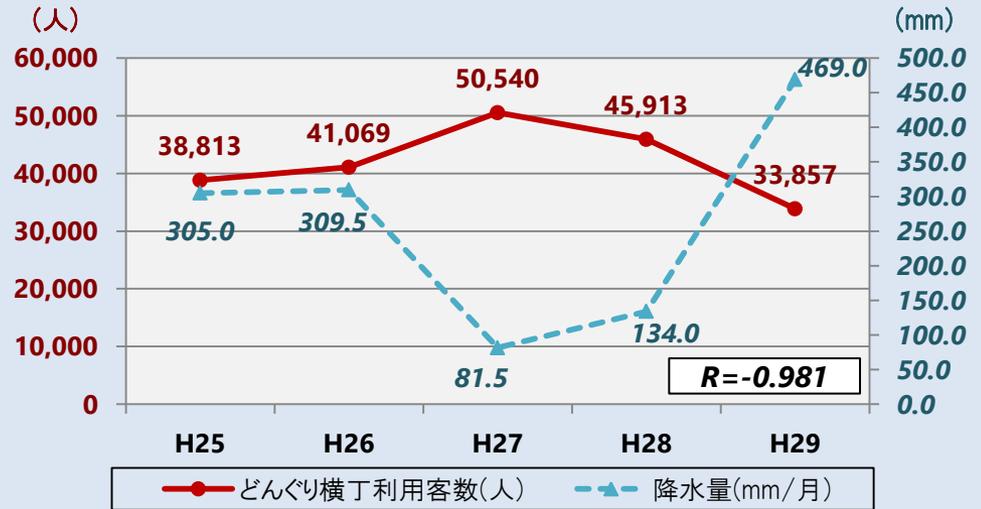
【参考：稲武地域の10月における降水量および日照時間の推移】

●平成29年度のどんぐり横丁の入込客数を見ると、特に10月（ピーク月）において例年よりも入込客数が少なくなっている。

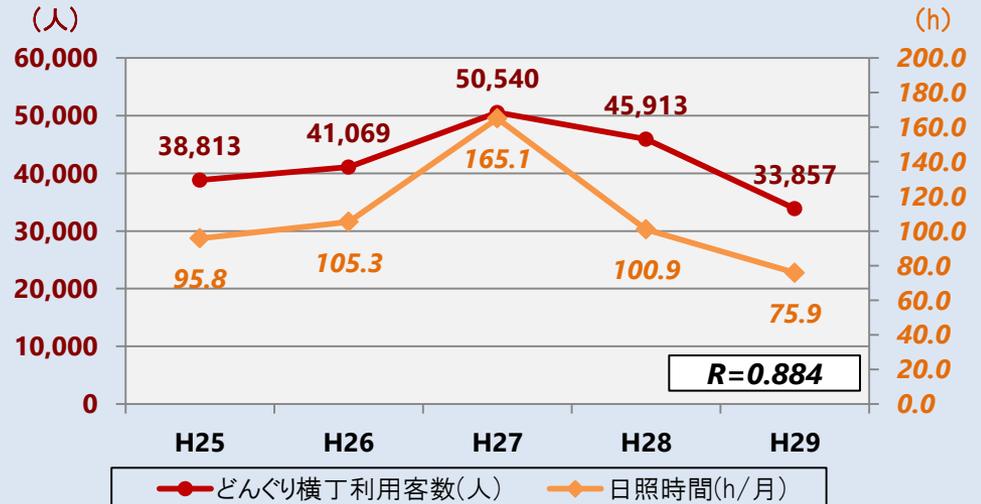
●気象庁HPより、10月の気象状況（降水量および日照時間）を見たところ、平成29年10月は、例年よりも特に天候が悪いことが読み取られた。

●どんぐり横丁入込客数と気象状況には強い相関関係がある。どんぐり横丁の10月の入込客数と気象状況との相関Rをみると、降水量は $R=-0.981$ の強い負の相関を、日照時間は $R=0.884$ と強い正の相関を示している。

●以上より、平成29年度は降水量が多く日照時間が少なかったことから入り込み客数が減少したと考えられる。



図：どんぐり横丁10月の入込客数と降水量の比較



図：どんぐり横丁10月の入込客数と日照時間の比較

Ⅱ 定量的指標の達成状況

事業目的

- ①観光客に対する、稲武地域の観光の**情報発信**や**地域産業育成**
- ②地域住民に対する、**地方創生拠点**としての機能強化

評価指標

- ①「どんぐり横丁」の利用客数
- ②「どんぐりバス」の利用客数

指標②（豊田市稲武地域バス（どんぐりバス）の年間利用者数）

当初現況値(H27)	10,451人	目標値と実績値に差が出た要因	少子高齢化に伴い生徒数が減少していることや、親の送迎により自家用車で通学する生徒がいることから、通学によるバス利用者が減少したと考えられる。
最終目標値(H31)	10,451人		
中間目標値(H29)	10,451人		
中間実績値(H29)	7,715人		

※「稲武地域バス利用者数」：「定時定路線バス」、「週一・デマンドバス」の利用者数の総計を示す。

※いなぶ快速便を含めたバス利用者総数は11,292人/年（H29）



図：各種バス利用者数の推移

Ⅱ 定量的指標の達成状況

【参考1：各年度毎のバス利用者数の内訳】

● 豊田市稲武地域バス（どんぐりバス）利用者数は減少傾向にある。その内訳をみると、特にデマンドバス利用者数が大きな減少となっており、その中でも学生利用が18.6%減と大きくなっている。

● 平成28年度より運行開始の基幹バス「いなぶ快速便」を含めるとバス利用者合計人数は増加傾向にある。

表：各種バス利用者数の年度別内訳

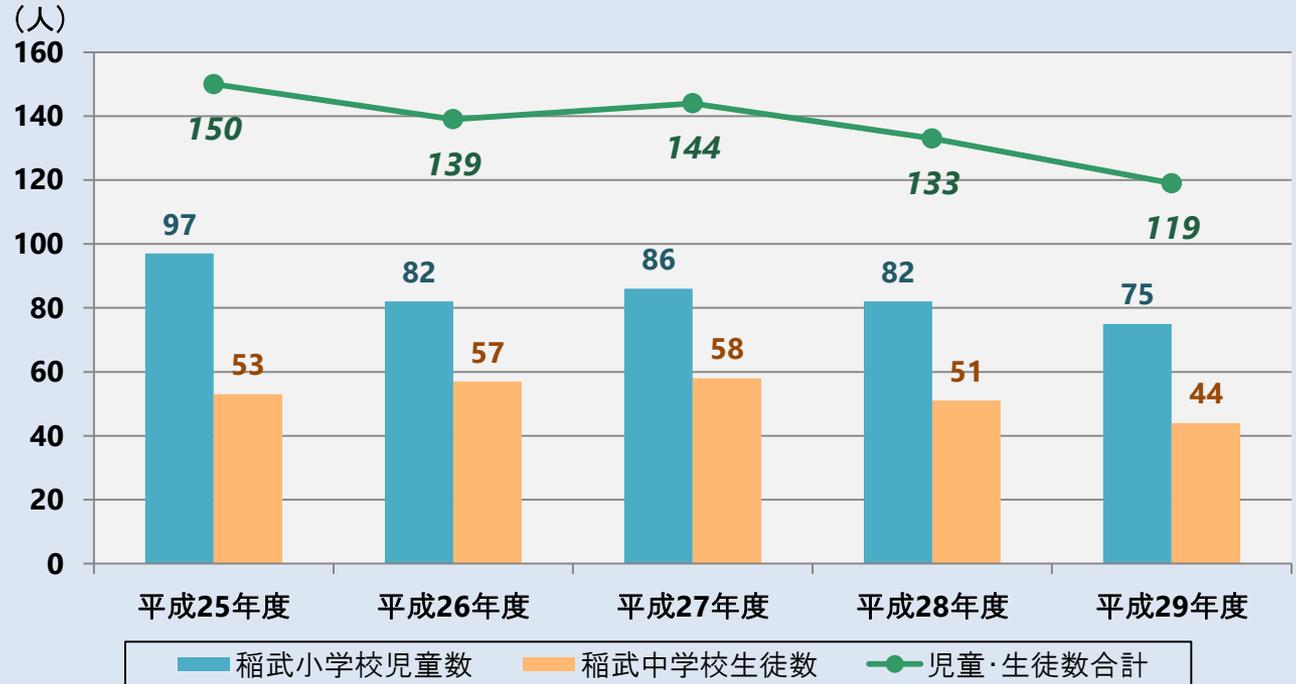
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
定時定路バス利用者総数	9,419	8,123	6,579	6,435	5,435	5,134
(前年度比%)	-	-13.8%	-19.0%	-2.2%	-15.5%	-5.5%
根羽線（根羽行き）	3,792	3,123	2,539	3,032	2,935	2,870
(前年度比%)	-	-17.6%	-18.7%	19.4%	-3.2%	-2.2%
根羽線（上郷行き）	1,834	1,624	1,364	1,035	574	568
(前年度比%)	-	-11.5%	-16.0%	-24.1%	-44.5%	-1.0%
押山線	3,793	3,376	2,676	2,368	1,926	1,696
(前年度比%)	-	-11.0%	-20.7%	-11.5%	-18.7%	-11.9%
デマンドバス利用者総数	1,365	2,164	2,218	2,772	3,139	2,581
(前年度比%)	-	58.5%	2.5%	25.0%	13.2%	-17.8%
一般利用	553	550	622	832	1,154	965
(前年度比%)	-	-0.5%	13.1%	33.8%	38.7%	-16.4%
学生利用	812	1,614	1,596	1,940	1,985	1,616
(前年度比%)	-	98.8%	-1.1%	21.6%	2.3%	-18.6%
豊田市稲武地域バス（どんぐりバス）利用者総数	10,784	10,287	8,797	9,207	8,574	7,715
(前年度比%)	-	-4.6%	-14.5%	4.7%	-6.9%	-10.0%
いなぶ快速便利用者総数					2,530	3,577
(前年度比%)	-	-	-	-	-	41.4%
バス利用者合計人数	10,784	10,287	8,797	9,207	11,104	11,292
(前年度比%)	-	-4.6%	-14.5%	4.7%	20.6%	1.7%

【参考2：稲武地域の小学校児童数、中学校生徒数】

●稲武地域の児童・生徒数は、減少傾向にある。特に平成29年度は前年度よりも10.5%減となっており、平成25年以降では最も減少率が高くなっている。

●デマンドバス利用者の半数以上は、学生利用※前頁参考1となっている。

●学生数が減少していることから通学でのデマンドバス利用者数が少なくなったと考えられる。



図：稲武小学校児童数および稲武中学校生徒数の推移

表：稲武小学校児童数および稲武中学校生徒数の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
稲武小学校児童数	97	82	86	82	75
(前年度比%)		-15.5%	4.9%	-4.7%	-8.5%
稲武中学校生徒数	53	57	58	51	44
(前年度比%)		7.5%	1.8%	-12.1%	-13.7%
児童・生徒数合計	150	139	144	133	119
(前年度比%)		-7.3%	3.6%	-7.6%	-10.5%

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

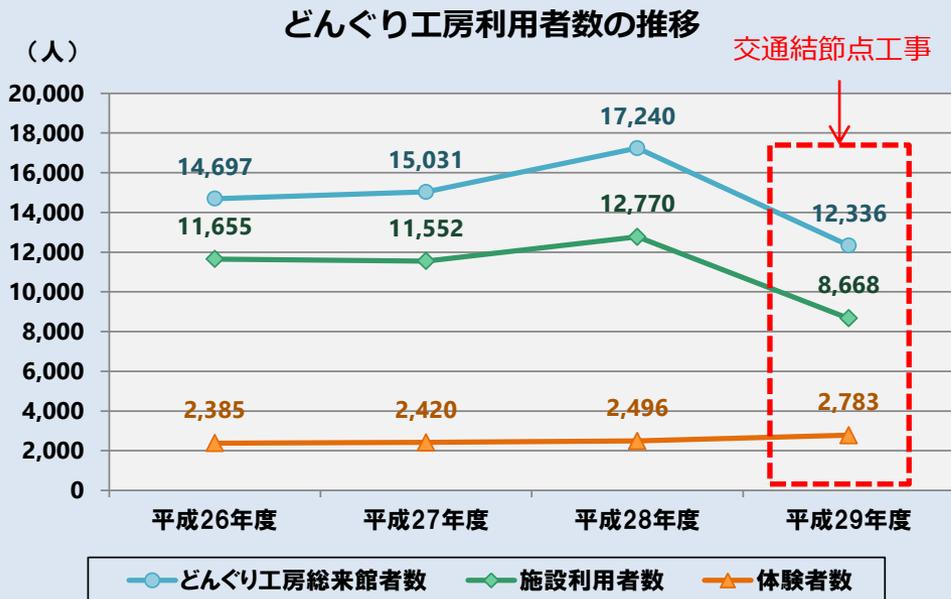
事業目的

①観光客に対する、稲武地域の観光の情報発信や地域産業育成

評価指標

①'山里体験施設「どんぐり工房」の利用客数(※)

「指標①」を補完するその他指標：①'「どんぐり工房」の利用客数



考察

○平成29年度は道の駅「どんぐりの里いなぶ」同様に利用者数の減少傾向がみられるものの、平成26年度から平成28年度にかけては概ね増加傾向にある。

○どんぐり工房における「体験型」施設の利用者数は、平成29年度も含めて年々増加していることから、着地型観光目的の利用客の誘致を実現している。



(※)「どんぐりの里いなぶ」総利用客の内、
地域体験型エリア「どんぐり工房」の利用客数を示す。

「どんぐり工房」での体験活動の様子

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

事業目的

②地域住民の地方創生拠点としての機能強化

評価指標

指標②' 予約制バス利用者数

指標②'' 予約制バスの運行日数と稼働率(※)

「指標②」を補完するその他指標：

②'予約制バスの利用者数

予約制バス利用状況と稼働率の推移



考察

- 平成24年度から平成28年度にかけては年々増加傾向にある。
- 平成29年度には平成28年度に比べて利用者数は減少しているものの、平成24年度からは1,216人(+89.1%)増加している。
- 利用者数が増加傾向となっていることから、地域住民の快適かつ安全・安心な移動に寄与していると考えられる。

「指標②」を補完するその他指標：

②''予約制バスの稼働率

考察

- 平成24年度には稼働可能日の49.4%のみの稼働率であったが、平成29年度には84.2%まで増加している。
- 平成24年以降、予約制バスの利用は促進されており、地域の交通利便性の向上に繋がったと考えられる。
- さらに、いなぶ快速便の開通により、豊田市市街地と稲武地域の交通ネットワークの強化に繋がったと考えられる。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
一般利用	553	550	622	832	1,154	965
(前年度比%)	-	-0.5%	13.1%	33.8%	38.7%	-16.4%
学生利用	812	1,614	1,596	1,940	1,985	1,616
(前年度比%)	-	98.8%	-1.1%	21.6%	2.3%	-18.6%
利用者総数	1,365	2,164	2,218	2,772	3,139	2,581
(前年度比%)	-	58.5%	2.5%	25.0%	13.2%	-17.8%
実稼働日数	76	85	113	146	131	128
稼働日(月・水・金曜日)	154	154	154	155	154	152
稼働率	49.4%	55.2%	73.4%	94.2%	85.1%	84.2%

1,216人増加

(※)稼働率に関しては、運行可能日数中(月・水・金)の実稼働日数を示す。

◆今後の方針

- ・道路拡幅事業および交通結節点整備事業では、道の駅「どんぐりの里いなぶ」及び周辺施設利用者の安全で快適に利用できる環境を創出できたとともに、地域住民の交通利便性向上などに向けた整備を進めてきた。
- ・今後、交通結節点南側に市単独事業にて繁忙期の駐車場やイベント開催場所として利用可能な多目的広場を整備する予定である。そのため交通結節点をはじめ「道の駅」各施設から多目的広場にかけて、引き続き安全で快適な歩行者空間を整備して、回遊性の向上に努める。
- ・指標①については、天候不良により中間目標値は未達となっている。天候による影響を緩和するために、どんぐり横丁での魅力的な商品開発を進めるほか、どんぐり工房を中心とした大型バスを活用した着地型観光のプラン作成や、稲武地域内の観光資源と連携した取り組みを推進する。
- ・指標②については、通学利用の減少により中間目標値は未達となっている。バス利用者自体は増加傾向となっていることから、引き続き今回整備した交通結節点を中心に、地域の交通利便性向上や地域バスの観光利用も視野に入れて取り組む。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価を実施予定。
事後評価の実施時期	平成33年3月（仮）
公表の方法	豊田市のホームページに掲載